

都道府県金融広報委員会 事務局員の活動紹介

オリジナル企画 で楽しい講座を

京都府金融広報委員会

西澤 典子

「夏祭りのお店に行こう!」下の写真は今年の『おかねフェスタ』でのひとコマです。

『おかねフェスタ』は、子どもから高齢者まで、幅広い世代にお金の知識を学んでもらおうと、当委員会独自のイベントとして2010年から

毎年夏に開催しています。

今年も、親子向け講座として『おこづかい帳のつけ方教室』を企画しました。この教室は、ワークショップ(体験型講座)の形式とし、子どもたちが関心を寄せてくれるように、「夏祭りの縁日」という設定にしました。お金の商品の代わりに模擬マネーと商品カードを作り、お店の店員役は金融広報アドバイザーの方々にもお願いしました。

子どもたちは、おこづかいをもらって、いざ買い物へ。お店の人の誘惑に

も負けず、無駄づかいをしないで楽しく買い物をした後、おこづかい帳のつけ方を学びました。最後に、金融広報アドバイザーから「お金を大切に。まずはお金を何に使ったかを把握しましょう。おこづかい帳はきつとその役に立つはず」というお話を聴きました。子どもたちからは、「おこづかい帳をつける意味が分かった」という感想を聞くことができ、短い時間でしたが、とても充実したものになりました。

今回の企画は、金融広報アドバイザー



「夏祭りのお店に行こう!」のお店の様子
左は事務局員の武村さん、右が西澤さん

教育現場発! 金融教育なう

愛媛県金融広報委員会

山下 由美子

愛媛県金融広報委員会では、誰もが平等に学べる場《学校》での金融教育の推進に向けて多様な支援を行っており、事務局を担当する私は、1年間のうちに幼稚園から高校までさまざまな教育現場を訪れています。

幼稚園では、「ニンジンさん大き

くなってね」と言ってお楽しみそうに水やる園児に出会いました。収穫した野菜を使ったカレー作りを通じて、食物の大切さや分担作業の必要性を学びます。小学校では、校内バザーで販売する商品の値段を児童と一緒に考えました。スーパーの店頭価格との比較や儲けの検討など、子どもたちの活発な討議に圧倒され、一言も発せず無言で帰宅…。中学校では、パソコンを使った模擬ネット商店街でのお買い

物を体験しました。注文した商品

と違うものが届き、さらには自分の個人情報も漏洩。「マジか!」とつぶやく男子生徒を今でも忘れられません。IT社会の利便性と危険性を学ぶのも金融教育です。高校生になると、よりレベルアップし、起業を想定した『法人登記・商品開発・財務分析・広報活動・経営計画』に取り組みます。真剣な顔の高校生を前に「日本の将来も安泰だなあ」と感心しきり。

も、一人の保護者として学校を訪れる時とは違う視点で、いろんなことを発見し、学んでいます。県内全域の学校や家庭・地域に、社会のなかで生きる力を育む、という金融教育の必要性を普及・推進することが私の使命と考え、これからの地道に取り組みでいきなりたいと思います。

